

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100726		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホームいろは		
所在地	大分市賀来2090番地1		
自己評価作成日	平成31年2月1日	評価結果市町村受理日	平成31年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100726-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成31年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がゆっくりと過ごして頂ける家庭的な施設である。
 駅がすぐそばにあり、市内中心部へのアクセスもしやすい場所にある。
 自然豊かな環境にも恵まれている。
 特殊浴槽も設置しており、ADLが低下した入居者も安心してゆっくり入浴できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年開設された事業所は、この一年経験豊富な管理者のもと、初期段階での基盤の確立に向け真摯に取り組んでいます。理念「自分が入居したくなる～」「地域に根付いたホーム」を念頭に、利用者の立場に立って考える支援を行っています。歩行状態の良い利用者も多く、日常的な外出支援に力を入れる中で、家族の協力もあり、うみたまご・初詣・県立美術館に行ったり、施設周辺が散歩コースに整備されており、天気の良い日には、散歩する利用者も多く見られます。外出希望を聞き、可能な限り実現できるよう支援しています。食事に関しては、調理員を配し、手作り料理を提供しています。利用者の嗜好や季節感に配慮した献立が作られ、家庭料理を利用者と一緒にも作ることもあり、楽しみの一つになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に貼ったり、職員の名札の裏に印刷するなどして、普段から意識できるようにしている。ミーティングでもケアについて話し合い、共有して実践につなげている。	理念については月一回のミーティングで共有されており、施設内に掲示、名札でも確認ができるようになっています。自分が入居したい施設を目指している内容になっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が利用できる地域交流スペースを設置している。地域のお祭りへの協賛や参加など、地域との交流を大切にしている。	自治会との交流があり、地区の要望で地域の方が利用できるスペースを作ってもらいたいとの意向を汲んで、地域交流スペースが設置されています。地域のお祭りに参加して、今後は事業所全体での参加も計画されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護や認知症についてなどの相談はいつでもお受けするようにしている。また、地域ネットワーク等の集まりにも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市役所職員、地域包括支援センター代表、家族代表、自治会長、民生委員、職員代表が出席している。話し合いで出た意見などを反映し、サービス向上に活かしている。	2か月に1回開催されており、事業所内の報告や研修会、各種要望を活かせるよう職員間で改善に努めています。家族の参加率も高く連携を図っていることが伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修会などでケアサービスの取り組み等について意見交換しながら協力関係を築いている。	地域包括支援センター主催の研修会で意見交換を行っています。災害時の対応施設としての依頼を受けており、運営推進会議などを利用して市職員と連絡を取るようになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。もし、必要な場合も、医師の指導の下、ご家族に説明し、同意して頂いてからでないといけないよう徹底している。	身体拘束に関しては、医師への意見収集や身体拘束をしなくて対応できる方法を検討して、業務にあたっています。徘徊される利用者に関しては寄り添う対応をし、落ち着ける状況を提供されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは何度も議題に上げている。虐待しない、見過ごさないように注意を払うよう徹底し、防止に努めている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう、情報に耳を傾け、活用が必要である場合には支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を入居者やご家族に十分行い、不安や疑問点がある場合も丁寧にお答えし、納得して同意を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からの意見、要望などを職員間だけでなく、運営推進会議などで意見交換し、運営に反映させている。	玄関に意見箱が設置されており、誰でも投函できるようになっています。面会に来られない家族に直接話をして、意見収集し対応しています。近況に関しては請求書に記載して郵送しています。	面会に来れない家族や運営推進会議に参加できない家族を含めて、年に数回アンケート調査を行える体制が整備されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで運営に関することについても意見交換し、反映させている。	会議の中で職員から意見を求めたり、日常業務の中で気づいた時に管理者へ意見を言える環境を整えています。出来る事と出来ない事等を話し合い、出来るだけ実現できる体制を取られています。	細かな情報や提案事項を収集するために、職員との個別面談を数か月に1回程度行う体制が整備されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日や希望する時間帯での勤務を反映できるよう努めている。勤続年数、勤務態度などに応じて毎年昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などには積極的に参加させている。研修で学んだことを日々のケアやミーティングでバックアップし、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに積極的に参加して、他の施設の取り組みなどについて意見交換し、サービス向上に役立っている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に好きなことや趣味、困っていることや不安なことをヒアリングし、入居者が安心できるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入居時などにご家族が困っていることや要望などをヒアリングし、解決に向けて一緒に取り組んでいくことで信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事など、入居者ができる範囲で手伝って頂くようにしている。一緒に行うことで教えられることも多く、お互いに支えあっていることを実感できる場面となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントなどを通じてより良い家族関係の構築に努めている。ケアで問題が発生した場合、ホーム内だけで解決するのではなく、ご家族の意見も取り入れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所などを聞き出してお連れしたり、馴染みの方々が集まる機会に参加できるよう支援に努めている。	家族の要望があれば、可能な範囲で対応するようにしています。介護が必要な方は、職員がお手伝いをして馴染みのある関係者との交流に参加できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関係がより良くなるよう努めている。ホールでの座る位置を変えたり、会話が楽しくなるように職員が間に入ったりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはできるだけ詳細な情報を提供し、相談などあれば対応、支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしていきたいか把握するよう努めている。ご家族からも情報を頂き、反映するよう努めている。	普段の生活の関わりの中で、些細な会話でも大切にして利用者の希望や意向を聞き取るようにしています。実現可能な内容か、関係職員で話し合い出来る範囲で対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族からこれまでの暮らしなどをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子を観察し、ミーティング等で情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には入居者、ご家族の意見や要望を聞き、ミーティング等で意見交換し、作成している。短期目標に沿ってモニタリングし、見直している。	介護計画作成者、関係職員で会議を開き、情報を一元化し会議の場で話し合われています。モニタリングでは、現状の把握と介護方法に相違点があれば計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は介護記録や情報交換ノート、ミーティングなどで共有しており、ケアプラン作成時にも参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な怪我や体調不良時には病院にお連れしている。各種申請手続き等もできる範囲で代行している。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や研修会、地域ネットワークなどで地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診がある。往診時に相談したり、必要な場合は検査指示して頂いたりしている。訪問歯科や訪問看護も利用している。	入所前の担当医を継続される方、協力医に変更される方等、利用者・家族の希望を尊重し支援を行っています。月2回協力医の往診時に健康状態を確認し、診療時の情報は家族と共有し適切な医療の支援に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が職場内の看護師、訪問看護師等と相談や情報交換を行いながら協力して入居者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合にはご家族や病院関係者との情報交換をしている。入院中の経過等も情報交換し、退院時の受け入れ準備もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のケアについては早めに入居者、ご家族の意向を確認するなど、話し合いをしている。実際にその時期になったときには体調の変化の度に話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	契約時に重度化・終末期の対応を重度化指針にて説明し同意を得ています。事業所での看取りはありませんが、職員には、管理者と経験のある職員が内部研修、勉強会を行い対応方法の習得や共通認識の共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、現場にも貼っている。ミーティング等でも緊急時の対応について話し合っており、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、災害時に備えています。倉庫に食料などを備蓄したり、寝具類も余分に用意している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っています。災害マニュアルをもとに訓練の中で指導しつつ実施しており、評価の見直しを次回に活かしています。	夜間は、職員だけで対応することは困難とされますので、地域住民を含めた避難訓練の参加等、協力関係の構築に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけやオムツ交換など誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	個人を尊重した呼び方や言葉遣い等、自尊心を損ねないように注意し対応するとともに、入浴、排泄時は特にプライバシー、羞恥心に配慮した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが希望したことなどを実行できるよう努めている。すぐには実行できないこともミーティングで計画するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心でなく、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重するよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのときに一緒に選んだり、散髪の際に一人ひとりの希望する髪型を聞いてお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みなども反映したメニュー作りを心掛けている。施設で調理しているのでメニューによっては調理のお手伝いを一緒にしてもらったりもしている。	調理員が配置され、食事は施設(1階・2階別々)で調理されています。季節に応じた旬の食材を取り入れ、職員がメニューを考え、利用者と一緒に調理を行っており、お手伝い等の協力も利用者が参加できる工夫を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に気を配っている。一人ひとりの健康状態にも十分注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科による専門的な口腔ケアやアドバイスなど、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換などしている。なるべくトイレで排泄できるように自立に向けた取り組みをしている。	排泄チェック表や表情、仕草等から利用者の排泄習慣を把握し、羞恥心とプライバシーに配慮した声かけ誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱や不穏行動など、日常生活に影響が出ることは理解している。水分補給を促したり、散歩や体操などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の楽しさを忘れてしまわないために、入浴日には様々な方法で誘導し、皆さん入浴して頂けるよう努めている。特殊浴槽の設備があるので、ADLが低下した入居者も入浴を楽しんで頂ける。	週3回の入浴を基本として支援しています。特殊浴槽を利用する方や、ゆっくり入浴する方は別の日を設定する等配慮し、入浴拒否の方も無理強いせず入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬について理解できるよう情報をファイルしたり、訪問薬剤師の説明を受けたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器の片付け、掃除や洗濯の手伝いなど、できることは一緒に行っている。何か役割を持つことにより、いきいきとした表情が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴などを行っている。職員とドライブや買い物に出掛けたり、ご家族と外食や外泊に出掛けたりもしている。	平均介護度が2.2と歩行状態の良い方が多く、近くのコンビニで買い物、玄関前の自動販売機の利用、家族の協力で外出される方、午前中気候の良い日には施設周辺を散歩される方等、外気浴も含め気分転換の機会を多く作っています。	

自己評価及び外部評価結果、GHいろは

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持ち込まないよう、ご家族にお願いしているが、買い物に出掛けたときなどは好きなものを選んで買い物を楽しんで頂き、施設が立て替えて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、友人に手紙を出したりできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように照明や空調などに配慮し、季節に応じて模様替えをしたり、入居者の写真や作品を飾るなど工夫している。	全体的に自然な光が差し込み、明るく清潔感のある空間作りに取り組んでいます。観葉植物や季節の草花を配し、壁面の飾りや展示物も月毎に工夫しています。台所がホールと隣接して、料理のにおいや、まな板・食器の音等生活感が溢れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがホールで思い思いに過ごして頂けるような居場所の工夫をしている。テーブルやソファの配置などもミーティング等で話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を置いたり、写真、作品などを飾ったりするなど居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	入所時に家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらい、早く馴染めるよう希望や思いを尊重した居室になるよう工夫しています。家族写真・誕生カード・利用者の作品を飾り、テレビ・仏壇等思い思いに置いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで要所に手すりも設置しており、一人ひとりが安全に生活や歩行訓練などができる環境をつくっている。		

自己評価及び外部評価結果、GHいろは